

アート・つながり・ウェルビーイング 文化の社会的価値を再考する

参加費
無料

定員
220名

2024年6月4日（火）

13:30 - 17:15 ※13:00開場

同時通訳つき

新型コロナウイルスの流行に伴い多くの社会活動が「不要・不急」として制限されました。とりわけ、祭りや伝統文化、アートやスポーツといった文化活動が強く制限されました。これらの活動は、ウェルビーイング、すなわち、人々同士の豊かなつながりの中で、一人ひとりが自分らしい生き方を表現し、誇りと生きがいをもって生活することにつながると考えられます。しかし、実際にどの程度、これらの文化活動にウェルビーイングを高める効果があるのかは十分科学的に評価され、理解されてはいません。本シンポジウムでは、文化資本や社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）に関する世界のトップ研究者を囲み、ポストコロナにおける文化活動の意義と可能性を議論します。

スケジュール

イントロダクション

「アートとつながりの価値を科学する意義」
近藤尚己（京都大学大学院医学研究科 教授）

第一部 基調講演

- ①「文化的処方推進に向けた藝術大学の試み」
伊藤達矢（東京藝術大学社会連携センター 教授）
- ②「文化資本と社会関係資本：
社会疫学から見た文化の意義」
Ichiro Kawachi（Harvard School of Public Health 教授）
- ③「アートの健康効果についての疫学研究」※ビデオ登壇
Daisy Fancourt（University College London 教授）

第二部 指定発言

- ①「場のウェルビーイング醸成における文化の役割」
内田由紀子（京都大学人と社会の未来研究院 教授）
- ②「社会的共通資本と文化」
占部まり（宇沢国際学館 代表）

第三部 パネルディスカッション

「アート・つながり・ウェルビーイング：
文化の社会的価値を再考する」

座長
近藤尚己、占部まり

パネリスト
イチロー・カワチ、内田由紀子、伊藤達矢



近藤尚己
京都大学大学院
医学研究科 教授



イチロー・カワチ
ハーバード公衆衛生
大学院 教授



デイジー・ファンコート
ユニヴァーシティ・
カレッジ・ロンドン 教授



伊藤達矢
東京藝術大学
社会連携センター 教授



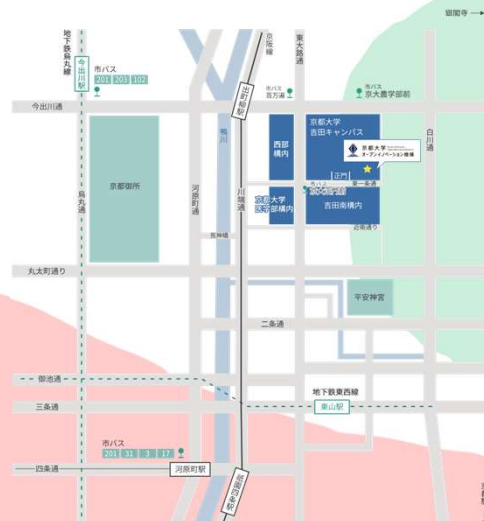
占部まり
宇沢国際学館
代表



内田由紀子
京都大学 人と社会の
未来研究院 教授

会場

京都大学
国際科学イノベーション棟西館5F
シンポジウムホール（現地開催のみ）



お申し込み方法

参加をご希望される方は右上のQRコードよりお申し込みください。
締め切り：2024年5月31日（金）

- ※ 定員になり次第、締め切らせていただきます。
- ※ ご不明な点がありましたら以下までお問い合わせください。

株式会社 アートツーリスト
art_wellbeing@art-tourist.co.jp

共催：京都大学大学院 医学研究科 社会疫学分野、京都大学 人と社会の未来研究院
東京藝術大学 共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点
協力：宇沢国際学館、社会的共通資本と未来寄附研究部門（京都大学 人と社会の未来研究院）
後援：京都市、養父市、一般財団法人 医療文化経済グローバル研究所、実験寺院 寶幢寺、株式会社CNC